



中心静脈(CV)カテーテル挿入トレーニング
(2011/11/28)



第8回Surgical Skill Training
(2011/12/13)



第2回iPad塾(楽しいiPad塾(ほいほい保存術))
(2011/12/19)

医療人育成・支援センターだより

第9号 2012年3月発行



English Communication Skill Seminar 特集



第1回

医学英語の学習はカリキュラムの中で低学年を対象に行われてきました。このため、BSL入った学生、研修医、大学院生、医学博士・修士を目指している若手医師、留学の希望のある医師のニーズには応えることができませんでした。

センターの医学教育部門ではこの改善のために、2008年10月からEnglish Communication Skill Seminarを定期的に企画し、本学で学んでいる学生・教職員、附属病院で働いている医療人が実践的な医学英語力を培うためのサポートを行って来ました。

このセミナーは学内外の数多くの先生方の協力に支えられて継続されてきました。Kenneth E. Nollet 先生(輸血・移植免疫学)には当センターの特任教授になっていただき、Native Americanの立場からいろいろなアドバイスを、また、学内の英語教員の方にはセミナーを契機にLL教室の時間外利用を

可能にさせていただきました。さらに、後藤 あや先生(公衆衛生学)にはタスクフォースとして加わりいただき、企画を立体的にさせていただいております。

学外からは本邦の医学英語教育の巨人(Patrick Barron 教授、Alan Lefor 教授)やプリンス(押味 貴之先生)にも素晴らしいレクチャーをしていただきました。プレゼンテーションスキル、ポスター作製、論文の書き方、外国留学など、毎回、多様なトピックで50~80名程度の希望参加者が学んでいます。

医療人としての経験・医学研究者としての成果をしっかりと伝えられる医療人を育てることが狙いです。今後とも御協力をお願いします。(コーディネータ 石川和信)

★HPはこちら

→(http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/Skill_Up_English.html)



第10回



福島アドバンスド・コース(FACE)が10回を数えました

平成21年度より「大学病院連携型高度医療人養成推進事業～東北高度医療人キャリアパス支援システム～」の一環として開始した「福島アドバンスド・コース(FACE)」がこの2月に10回を迎えることが出来ました。毎回、定員30名で募集をしていますが、回を重ねるごとに参加者が増え、特に第7回のFACEでは震災後に関わらず、40を超える方に参加いただきました。

また、FACEは豊かな講師陣が魅力の一つになっています。第2回には従来の創傷治療に革命を起こしている夏井 睦先生(石岡第一病院 傷の治療センター長)、第8回には“一度見れば

忘れないSpPinな身体所見”を合言葉に活躍されている須藤博先生(大船中央病院副院長・総合内科部長)、身体診察のスペシャリストとしてご高名な筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター総合診療科教授の徳田安春先生には第5回、9回と2年連続で講師を引き受けていただきました。

来年度も6月を皮切りに計4回開催予定です。皆さんの声を参考に、今まで以上に魅力的な内容にしていきたいと思っております。是非一度会場まで足をお運び下さい。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



第2回FACE



第8回FACE



第9回FACE



第10回FACE





活動報告

◆全員参加FD講習会



平成23年度は東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて、本県出身で三春町の福聚寺住職の玄侑宗久さんに講演をお願いいたしました。玄侑さんは芥川賞作家であり、本県のオピニオンリーダーの一人として

復興構想会議のメンバーも務められました。

当日は370名を超える職員が会場を訪れ、『医療における全体性をめぐって』と題して行われた、医療の持つ社会性、多面性についての話に熱心に耳を傾けていました。また玄侑さんは、医療職が単なる技術者ではないことを『福島の今』に照準を合わせてお話されました。今回の講演は、医大が果たす社会的な役割について考えるまたとない機会となりました。

◆災害・放射線被ばく医療研修

医療人育成・支援センターでは、昨年8月より医学生・研修医を対象とした災害・放射線被ばく医療研修を行っています。本学医師による放射線被ばく医療に関する講義、震災後の南相馬市での医療活動状況報告、仮設住宅における健康相談や住民との交流など、多様な研修内容となっています。



仮設住宅へお邪魔しての健康相談時には、医学生・研修医が住民の方へ血圧測定を行っているほか、当センター所属の



医師により仮設住宅で健康に過ごすためについてお話させていただいています。

この研修は来年度以降も医学生・研修医を対象に継続的に行っていく予定です。



女性医師支援活動

◆医師・研究者等と学生との交流会



女性医師支援センターでは、学生が社会人としての高い意識を持ち、夢や目標を達成できる環境を整え、また医師には、多様なライフイベントに対応して“働き続けられる”“一時離職しても復職できる”環境を整備し、その支援策を

整え、今後のキャリアプランについて話し合う『医師・研究者等と学生との交流会』を定期的開催しています。

平成23年12月14日(水)に、今年度第2回目となる交流会を医療研修センター(9号館)看護部研修室にて開催しました。「医師として働くと、どんな生活が待っているの?」「将来、こんな医師になりたい!」社会人になる疑問は尽きないけれど、学生の身近なロールモデルとなる先輩女性医師・男性医師から

自身の子育てと医師としての仕事の両立について経験を踏まえたお話しをいただき、ワーク・ライフ・バランスを保ちながら医療人として活躍するための意見交換等、会話が弾みました。男子学生を含む30名が参加し、実施後のアンケートからは、「とてもリアルなお話で、いい言葉もたくさん聞けてとても勉強になりました。私もずっと医師を続けていきたいと思った。」「仕事と家庭の両立の仕方、将来の仕事や生活、自分を取り巻く環境などについて、具体的なイメージを持つことができた。」などの声が多く聞かれました。24年度も7月と12月に交流会を開催予定で、キャリアプランを考えるよい機会となる様、内容を企画中です。



information

May 5

第44回医学教育セミナーとワークショップ in 福島

日時：平成24年5月26日(土)～27日(日)
 場所：本学内(福島市)
 参加費：資料代として2,000円(学部学生無料)
 申込締切：平成24年5月13日(日)
 【主催】岐阜大学 医学教育開発研究センター
 【共催】福島県立医科大学

★ スケジュール ★

- WS-1 災害から学ぶ実践的医療教育
- WS-2 厳しい現実に向き合うところのケアと医療面接
- WS-3 地域枠入学者と地域医療教育のプランニング
- 特別セミナー「震災後の社会が医療者に求めていること」
- 見学体験セミナー シミュレーション教育の授業活用：バーチャル医学生

模擬患者(SP)さん募集中!

現在、医学生・看護学生、研修医、若手医療人の医療コミュニケーション教育に福島医大模擬患者(SP simulated patient)の方々に協力していただいています。臨床実習入門・OSCE、臨床実習など、幅広いユニットで40数名のSPさんに分担して教育に協力していただいています。医学部定員が大幅に増加していることから、今年度、新規に養成会参加者を募集します。医学教育に協力していただきながら、自らのコミュニケーション・コーチングスキル、医学知識などを学ぶことができます。詳しくは医療人育成・支援センターにお問い合わせ下さい。



福島県立医科大学 医療人育成・支援センター(CMECD)

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

Tel : 024-547-1047 / Fax : 024-547-1715

e-mail : CMECD@fmu.ac.jp / HP : <http://www.fmu.ac.jp/home/cmeecd/index.html>

